

優良賞 差別



青森市立新城中学校 3年 阿部 来瞳

みなさんは1年前に神奈川県相模原市で起こった、戦後最悪とも言われたあの事件を覚えていますか。去年7月26日未明に障害者施設「津久井やまゆり園」で、元職員の男性が、施設利用者や職員を次々に刃物で刺し、26人が重軽傷、19人を死亡させたとても恐ろしい事件です。犯人の男性は、元職員だったにもかかわらず、どうしてこのような事件を起こしてしまったのでしょうか。

私は、障害者施設に勤めるということは、利用者を助けてあげたい、少しでも力になりたいという気持ちがあるから、その職業についたのだと思っています。それなのに、障害者の方々に向かって「障害者全員死ね」や「生きている価値がない」などと、酷すぎる発言を勤務していた時にもしているのは、全く気が知れません。そもそも、どうして人を殺すのでしょうか。どうして考えないのでしょうか。犯人である植松聖容疑者は、たびたび差別と思われる発言をしていたそうです。でも、ふと考えると私も含め意外といろいろな人が「差別」をしているのではないのでしょうか。例えば、自分と少し容姿の違う人を思い浮かべてみて下さい。もしもその人が、すぐ隣に座ってきたり、話しかけられたらどう思いますか？別に何も思わない人ももちろんいると思います。でも、少し自分と違うだけで「あっ」と思ってしまう人もいます。私もそう思ってしまう。でも、それは差別です。分かっている自分と少し違う人に対して思ってしまうことはあります。「かわいそうだ」とか「嫌だな」とか、人それぞれ思いは違うと思います。でも、容姿や中身が違って、みんな同じ人間です。たくさんの方がいるこの世界で、自分と全く同じ人がいることの方が私は嫌です。今隣にいる人、家族のみんな、友達、人それぞれの良いところと悪いところ、欠けているところ、そして少し違うところを、そのたくさんの周囲の人達で支え合っていくのが、他を認め、差別を無くすことの一番大切な部分だと思います。自分と少し違うところを悲観的に捉えるのではなく、それをその人の個性だと思えばいいのです。私にはあるものが、相手にはないかもしれない。それを分かって、助けてあげればいいのです。もしかしたら、私たちが助けられることもあるかもしれない。

テレビで、障害者の方が、この殺傷事件後から、顔をたくさんかきむしったり、切りつけようとしたり、壁に額を打ちつけるなどの自傷行為を続けているのを見ました。私は、とても悲しくなりました。差別から起こったこの大きな事件は、遺族の方々や職員以外にも、たくさんの方が心に深い傷を負いました。心の傷は、きつとずっと消えることはないと思います。未だに事件についてきちんと反省の意を示していない犯人には、きちんと事件について話して欲しいと私は思っています。

私たちの周りでもある差別や偏見から起こったこの事件は、絶対に忘れてはいけないと思います。もう二度とこのような事件を起こさないよう、たくさんの方が傷つくような事件がないように、周りの人の個性を認め、助け合いや思いやりの気持ちをもって、これからは差別や偏見がなくなるように、ボランティア活動などにも積極的に参加していきたいです。